

9月チャプレンだより

「父親の^{おな}虚しさ」

「夫婦二人に戻った」という言葉を聞くと、「子供が離れてしまって寂しい」と、鬱^{うつ}になっている母親の事をすぐ想像しますが、実は、父親も同様に、しかも結構深刻な場合が多いのです。

「花嫁の父」というかなり前の映画がありました。これは、娘を思う父親の愛を感動的に描いています。夕食の席で、父親の前に座っていた娘が、「結婚してもいいかしら」と聞きます。父親は動転します。立派に成長した娘は、今や巣立とうとしています。父親としての役目が突然終わったことを知って、彼は深い悲しみに襲われます。

大学生の子供を持つ400組のアメリカ人夫婦に子供を巣立たせた時の心境を聞いたところ、父親の受けた衝撃は、母親を上回っていたということです。

第一の理由は、後悔です。仕事に明け暮れていた父親が、成長した子供と向き合おうと思ったときには、すでに手遅れだったのです。お子さんをもつ親御さんは、子供のための時間を定期的に取りてください。「うちの子供は、まだ小さいですからね」と安心してはいられません。子供の成長は本当に早いのです。

子どもと過ごす時間の悪い例をいくつか紹介しましょう。

子どもとゲームをしながら、横目でチラチラとスポーツ中継を眺めること。算数の宿題を手伝いながら、新聞を読むこと。土曜日に会社で、子どもにぬり絵をさせておいて、自分は仕事をする。娘に絵本を買ってあげようと、本屋に入りながら、自分の趣味の雑誌に熱中してしまうこと。

子どもの生活に関わっているという形をとりながらも、実はただ見ているだけ、という例は、まだまだあるでしょう。けれども、子どもを、いつまでもだまし続けることはできません。子どもは、鋭い目で大人の偽善を見抜きます。そして、困った時に親がそばにいてくれなかったことを覚えています。これは他人事ではありません。あっという間に、子どもは成長し、親を離れて、自分たちの世界を持ちます。

ある人が、「愛するとは、あなたの全神経を注ぐことだ」と言いました。子どもと過ごす時間は、他のどんなものを捨てても、100%集中することが必要です。それが親としての責任です。子どもの成長は本当に早いのですからね。手遅れとならないまえに……。